

## メキシコ人児童生徒の生活実態調査結果

### A Study of Daily Life of Mexican Boys and Girls

小 林 寛 道

Kando KOBAYASHI

It is well pointed out that stature and physical fitness of boys and girls are affected by several environmental factors such as nature, socio-economics and hereditary characters. In the present study, daily life condition of Mexican boys and girls ages of 8 to 18 years was investigated to get informations to discuss their health and physical fitness level. One hundredforty subjects were selected from 4 different socio-economic classes, namely 3 groups of High, Middle and Low from urban district and 1 group from Rural district.

Social workers visited on 140 houses of the subjects to ask parents the following items : family constitution (number, age, education and income), facilities of the house (materials, drain, water service, lavatory and etc), content of meal (for two days), and daily life habit of the subjects. This study was carried out at León City (1850 m altitude, one million population), Mexico from November in 1980 to January in 1981.

The results were as follows;

Father's Income : Income in one month was more than 16,000 pesos (1 US\$ = 23 pesos) for 82.4% of High class and less than 4,000 pesos for 64.9% of Low class.

Education : Percentage of illiteracy for father was zero for High, 6.3% for Middle, 29.7% for Low and 13.3% for Rural, respectively. That for mother was zero for High, 14.3% for Middle, 39.5% for Low and 72.4% for Rural, respectively.

Number of children : Average numbers of children were 3.9 for High, 7.4 for Middle, 7.1 for Low and 6.9 for Rural.

Facilities of the house : Concrete roof was 100% for High and 73.2% for Low. Floor was made of mosaic tiles for 100% of High, but was an earth floor for 25.6% of Low and 16.1% of Rural. Water service was completed for High but was not inside the house for 19.6% of Middle, 34.0% of Low and 32.3% of Rural, respectively. Flushing lavatory was provided with 92.3% for High, 92.5% for Middle, 62.5% for Low and zero for Rural. Dejection to earth was 3.7% for Middle, 27.5% for Low and 80.6% for Rural.

Habit of boys and girls : TV was equipped by 92-96% for High and Middle, and 75.0% for Low and Rural, respectively. The subjects watch TV for 1-3 hours in a day. The time for home work was slightly longer for the subjects of High and Middle than of Low and Rural. Average time for home work and percentage to all subjects were 1 hour for 27.9%, 0.5 hour for 26.5%, 2 hour for 20.6%, 1.5 hour for 5.9% and none for 12.5%, respectively.

Average sleeping time was 10.0 hour for 8 years, 9 hour 35 min for 10 years and 9 hour 5 min for 14 years boys and girls, regardless of socio-economic classes.

Subject of 46.2% for High, 14.3% for Middle, 2.4% for Low and 6.5% for Rural sleep alone in a bed room.

Subjects of 12.5% for Middle, 22.0% for Low and 25.8% for Rural sleep with more than 5 persons in a bed room.

Content of meal : They take heavy meal for lunch and light for breakfast and supper.

Breakfast ; milk 50% (urban), 20% (Rural). beans and egg (protein) 20-60%. meat and chicken 10-25%. Tortilla 20-70%. bread 20-40% (urban). vegetables and fruit 10%.

Lunch ; juice 10-38%. soup 30-35% (Rural). meat 65-75% (High), 30% (Middle, Low and Rural). beans 68% (Low). Tortilla 53-75% (much for Rural). vegetables and fruit 20-30% (High), 10% (Middle, Low and Rural).

Supper ; milk 28-57%. beans 28-59%. (no beans for High).

As a whole, High take meat more than other classes. Low take meat less. High take bread much and Rural take tortilla much more than other classes. As reported previously, stature, muscle strength and maximum aerobic power were measured for these boys and girls. The results were superior in High to Low. The fact confirmed that health and physical fitness level might be strongly effected by socio-economic status of their family.

## 1. はじめに

児童の健康や体力といったものは、それぞれの生活環境や、自然環境、社会経済的環境、さらには、民族的な遺伝的環境によって影響されると考えられている。

これまで、日本の児童生徒についての生活実態調査は、数多く報告されているが、諸外国の児童生徒の生活実態調査結果に関して、体力測定、及び、健康調査の面から、総合的に検討した資料は、きわめて数少ないのではないかと考えられる。

この研究は、筆者が、1980年11月から1981年1月にかけて、「メキシコ人、及び、日本人児童生徒の体力に関する比較研究」という研究テーマのもとに、日本学術振興会派遣研究者としてのメキシコ国派遣中に、メキシコ国家科学会議、グナファト大学、レオン市、レオン市教育委員会の協力を得て、行なった研究のうち、主として、メキシコ人児童生徒の生活実態調査についてまとめたものである。

近年、我が国において、メキシコ国に対する関心が高まっており、また、世界政治の上でも、注目される平和外交を展開しつつある<sup>1, 7)</sup>が、メキシコ国民の生活の実態、特に、青少年の日常生活実態については、知られていない部分がそのほとんどであるといつてよい。本研究は、これら児童生徒の家庭を一軒づつ戸別訪問することによる質問方式によって、その生活の姿をとらえ、メキシ

コ人児童生徒の体力や健康状態を考察するための資料としての、位置付けをもつものである。

なお、体力測定としては、形態計測、皮厚、握力、最大有酸素的作業能 (Aerobic Power,  $\text{MaxVO}_2$ ) を測定し、健康調査としては、血圧、血液検査 (ヘマトクリット、ヘモグロビン)、糞便検査を実施した<sup>2, 3)</sup>が、その結果については、他の報告にまとめることにした。

## 2. 調査対象の背景

本調査研究は、メキシコ国グナファト州レオン市、及び、レオン市郊外の農村地区において実施した。レオン市は、メキシコシティより北方400 kmの、中部高原地区 (標高1850 m) に位置する人口100万人の都市で、皮製品の生産を主産業としているが、その周辺には、漠々たる荒野が広がっている。経済活動は活発であるが、失業率も高く、また、貧富の差も大きい。

メキシコでは、社会経済的階層を、通常4階層に分類している。すなわち、上流(High)、中流上層(Medium High)、中流(Middle)、貧困(Low)である。人口の比率でいえば、ごく少数の上流階層と、圧倒的多数を求める貧困階層が対象的であり、その社会経済的階層構成は、ほぼ、ピラミッド型である。

教育面では、小学校6年間のみが義務教育である。上流階層の子弟は、月謝が高く、しかも、外

国教育を含んだ私立学校に通学する。私立学校では、幼稚園から高校までの一貫教育を行なわれる場合が多い。大学は、州立、又は、国立大学に進学する場合もあるが、アメリカの大学に留学するケースも少なくない。

中流以下の階層の子弟は、通常、公立小学校に入学する。6才で入学後、児童生徒の年令は、必ずしも学令と一致せず、1学年に種々の年令がまざっている場合が多い。中学校は、全日制の学校もあるが、4時から開始する夜学に通う場合が多い。大学の入学試験は激烈であり、特に、医学部の競争率は、50倍程度である。

### 3. 調査の方法

レオン市教育委員会の協力により、上流階層、中流上階層、中流階層、貧困階層、及び、農村地区の子弟が通学する典型的な学校を指定した。それらの学校で、実験調査研究全体に対する協力依頼を行なうための、説明会を開催した。説明会は、小学校では、児童生徒、父母、保護者を対象に、中学校では、本人に対して、スライド、口頭、及び、デモンストレーションによる説明を行ない、本研究への協力依頼を行なった。なお、研究対象者は、8才から18才までの男女とした。

後日、この実験に協力することの正式な同意を保護者から書面で得るために、実験協力者の家庭を戸別訪問した。

戸別訪問には、グナファト大学のソーシャルワーカー研修生9名(女性)があたった。戸別訪問の際に、保護者に、次に掲げる項目について、質問紙にもとづいて質問し、その解答を口頭で受け、ソーシャルワーカーが、質問紙の解答欄に記入した。質問項目は次のとおりである。

実験対象者となる児童生徒の氏名、学校名、生年月日、出生地、住所、家族構成(父母の年令、家族構成数、家族全員の年令、性別、学歴、職業、収入)、家屋の内容(持家、借家、天井、壁、床の素材、配水・配管の有無、排水、便所設備の有無、寝室の状況)、児童生徒の生活内容(起床・就寝時間、2日間の食事内容、好む食事、遊び仲間や遊びの内容、勉強時間、TV視聴時間)

## 4. 結 果

戸別訪問は、140軒について行なった。その内訳は、上流階層11軒、中流上階層2軒、中流階層56軒、貧困階層40軒(いずれも都市部)、及び、農村地区31軒であった。上流及び中流上層は、例数が少ないのでこれを1グループにまとめ、上流・中流上階層グループ(High Class ; H)とした。また、中流階層(Middle Class ; M)、貧困階層(Low Class ; L)、農村地区(Rural ; R)をそれぞれのグループとしてあつかい、4グループ間の比較をかねて、調査結果の処理をした。

### 1) 家族の構成

#### ① 父親の収入

父親の1ヶ月の収入について、〈図1〉に示した。上流・中流上階層の収入は、82.4%が16,000ペソス(1 peso ≡ 10 yen)以上であるが、中流階層では、4,001～8,000ペソスが44.9%、8,001～12,000ペソスが20.4%を占めた。貧困階層の収入は、64.9%が4,000ペソス以下という低い水準にあった。

農村地区では、4,000ペソス以下が43.3%、4,001～8,000ペソスが40.0%、8,001～12,000ペソスが16.6%という結果であった。

#### ② 父親の職業

父親の職業について〈図2〉に示した。上流・中流上階層では専門職が8.3%あり、実業家・及び雇用人(会社員、店員、事務員)がそれぞれ25%と多い。中流階層では、工員が最も多く41.7%、雇

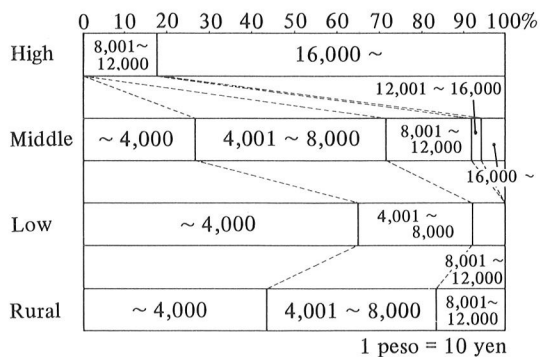


Figure 1. Father's Income (Monthly): Mexican Pesos

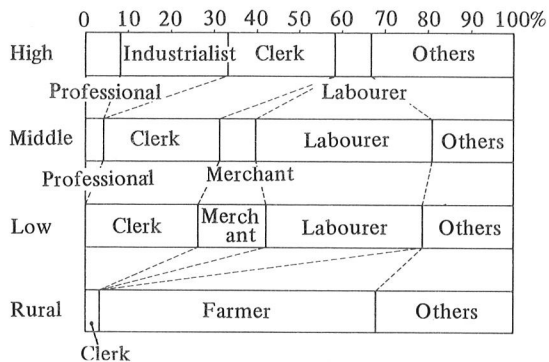


Figure 2. Father's Occupation

用人が 27.1%であった。貧困階層では、工員が 36.8%, 雇用人が 26.3%, 商業 15.8%であった。農村地区では、農業が 64.5%を占める。

### ③ 父母の年齢

父親及び母親の年齢については、＜表 1 (A, B)＞に示した。

Table 1(A). Father's Age

age class \ years	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69
High				5		4		2		
Middle			3	13	16	3	4	7		1
Low		2	6	4	7	5	6	3	2	3
Rural			4	7	8	3	6	1		2

Table 1(B). Mother's Age

age class \ years	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69
High		1	5	3	2					
Middle		1	6	18	16	6	2	3		
Low		2	10	4	9	7	4	3	1	
Rural		1	5	9	7	5		2		

### ④ 父母の学歴

父母の学歴について、＜図 3, 4＞に示した。父親の学歴についてみると、上流・中流上階層で

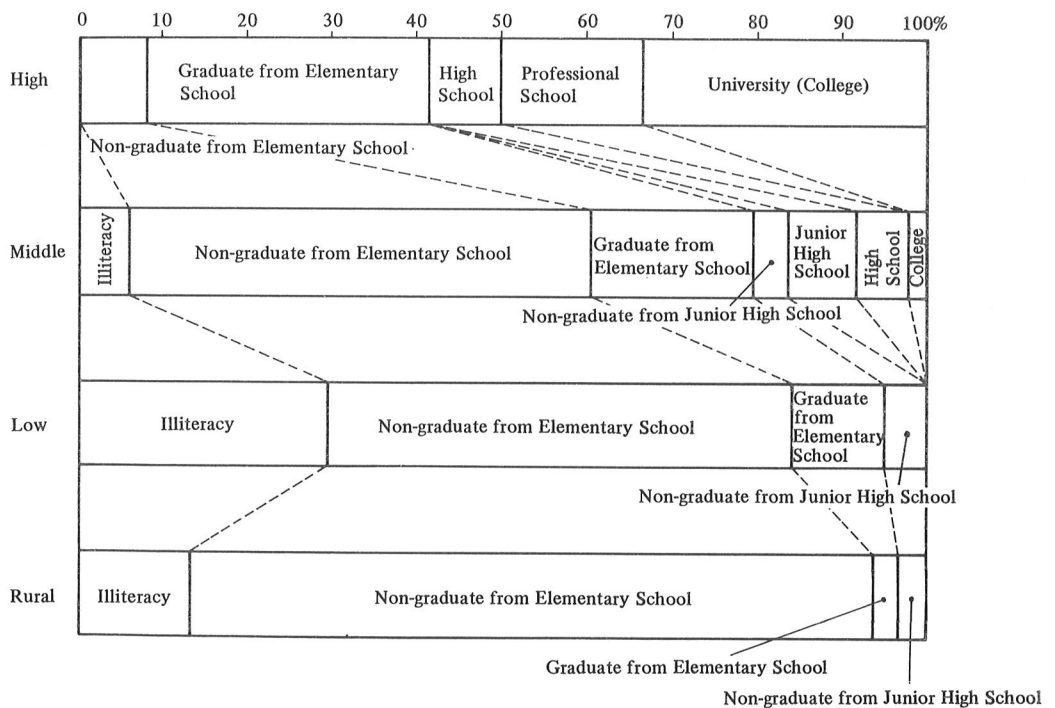


Figure 3. Father's Education



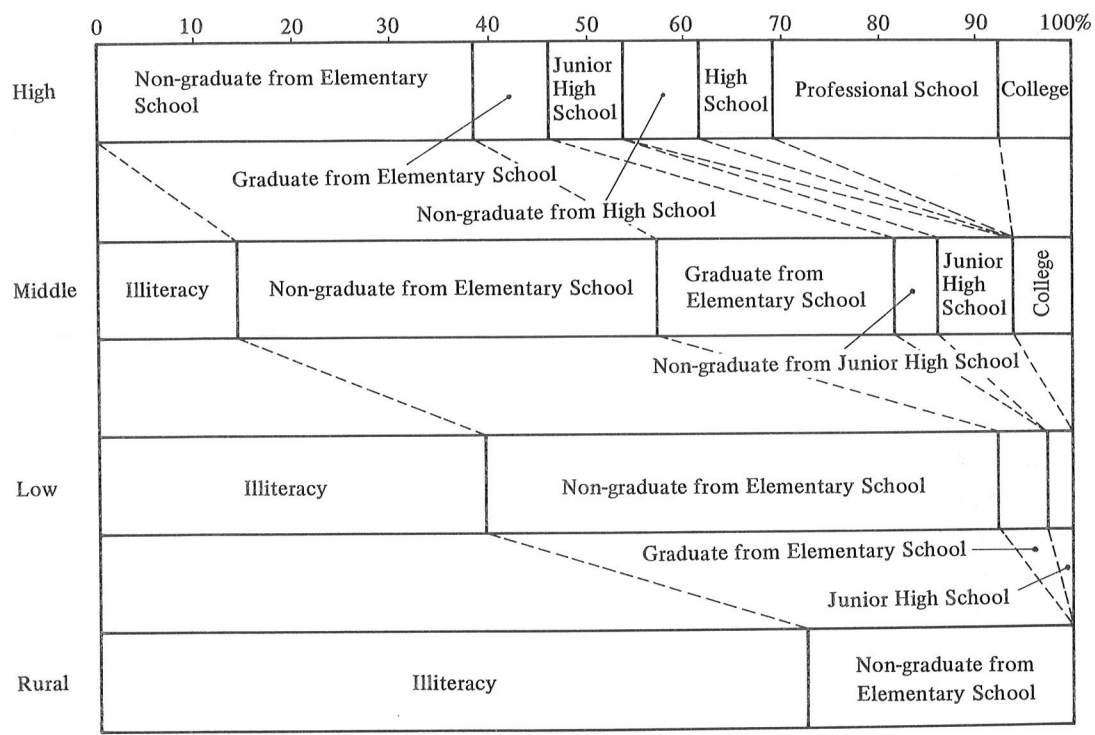


Figure 4. Mother's Education

は、小学校中退が、わずか 8.3% であり、33.3% が大学卒業である。中流階層では、文盲が 6.3%、小学校中退が 54.2% を占めており、小学校卒業は、18.8%、小学校卒業以上は 20% であった。

貧困階層になると、文盲は 29.7% を占める。小学校中退は 54.3% で、小学校卒業はわずかに 10.8% である。農村地区では、文盲が 13.3%、小学校中退が 80% を占める。

母親の学歴についてみると、上流・中流上階層では文盲はおらず、小学校中退が 38.5% を占める以外、すべて小学校卒業以上である。大学卒業も 7.7% みられる。

文盲は、中流階層で 14.3%、貧困階層で 39.5%、農村地区では 72.4% を占めている。すなわち、小学校卒業者の割合は低く、小学校中退と文盲をあわせた割合は、中流階層 57.2%、貧困階層 92.1%、農村地区 100% に達している。

⑤ 子どもの数

子ども（兄弟）の数について、＜図 5＞に示した。平均の兄弟数は、上流・中流上階層では 3.9 人であるが、中流階層では 7.4 人、貧困階層では 7.1 人、農村地区では 6.9 人であった。しかし、兄弟数が 10 人を越える例も少なくない。これは、実験対象となった児童生徒の家庭について調べたものであるから、最終的な兄弟の数は、この後に生まれてくる子どもを加えて、これ以上となることが確実である。ここに示した数値は、一応、現時点での兄弟数なので、メキシコ人家庭の平均値ということではない。

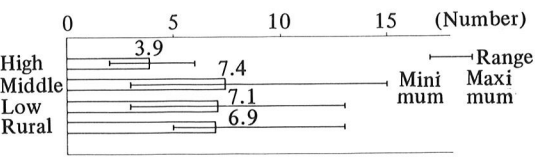


Figure 5. Number of Children

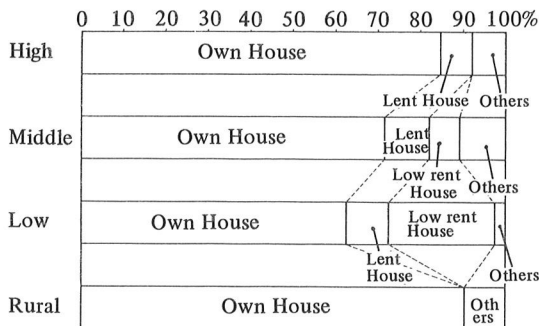


Figure 6. Housing

## 2) 家屋の内容

### ① 家屋の持主

家屋の持主については、＜図6＞に示した。持家（家族所有）の割合は、上流・中流上階層で84.6%、中流階層71.4%、貧困階層62.5%、農村地区90.3%であった。また、低家賃住宅に住む割合は、中流階層は7.1%、貧困階層20.5%を占めている。

### ② 庭

庭（家屋の外側にある庭、ヤルディン（ガーデン）及び、中庭（家屋に囲まれた中庭、パティオ）の有無については、＜図7、8＞に示した。庭は、上流・中流上階層の住宅では、57.1%が持っているが、その割合は、中流階層では39.3%、貧困階層では14.6%と少なくなっている。しかし、パティオとよばれる中庭は、多くの住宅にあり、貧困階層でも、90.2%の住宅に設備されている。

### ③ 家屋の素材

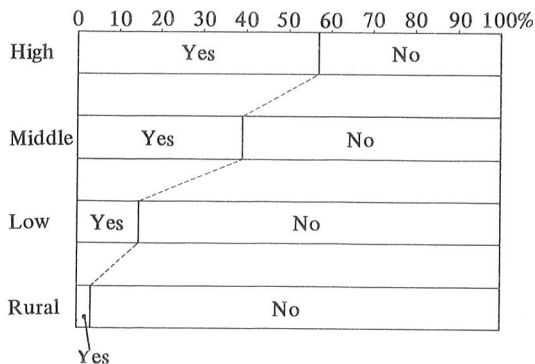


Figure 7. Presence of Garden

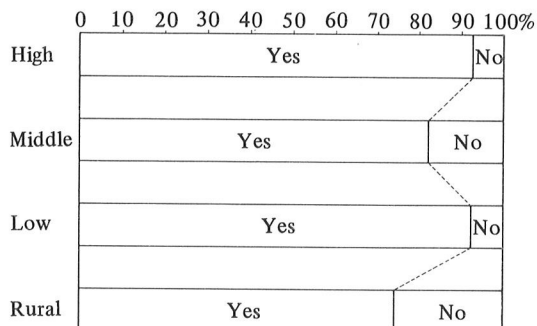


Figure 8. Presence of Patio

家屋の素材のうち、屋根は＜図9＞、壁は＜図10＞、床は＜図11＞に示した。屋根の素材は、上流・中流上階層では、100%がコンクリート作りであるが、この割合は貧困階層では、73.2%と少なくなり、かわって、トタン、かわら、タイルの使用が多くなっている。農村地区では、かわら、タイル屋根が77.4%を占めている。

壁は、通常、レンガで作り、その上に上塗りをして仕上げて隔壁となっている。しかし、貧困階層、及び、農村地区では、レンガのままの壁が、それぞれ、17.5%、及び、25.8%を占めるようになっている。

床の素材は、上流・中流上階層では、モザイクタイルであるが、中流階層、貧困階層、農村地区になるにつれて、その割合は少なくなる。（図11）貧困階層でモザイクタイルの床をもつものは17.9%であり、農村地区ではわずかに3.2%である。中

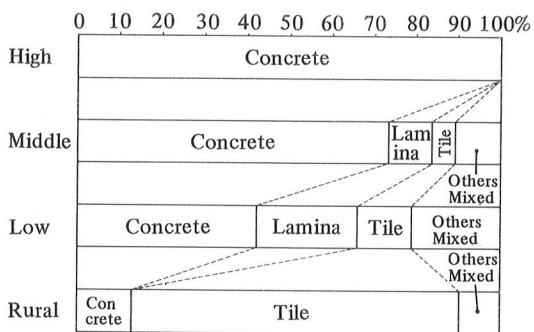


Figure 9. Materials of Roof

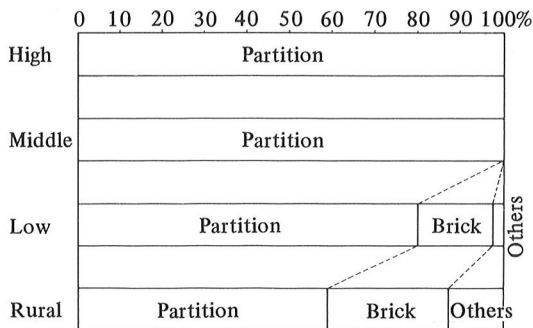


Figure 10. Materials of Wall

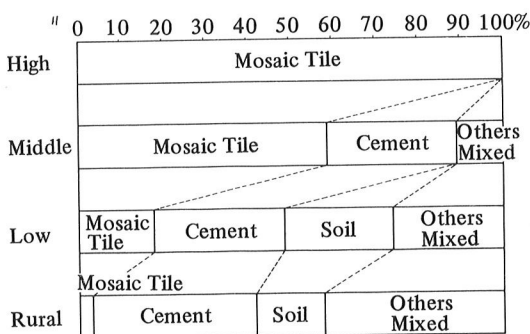


Figure 11. Materials of Floor

流階層以下では、セメント床が30～38%を占めている。注目すべきは、土の床であり、貧困家庭では25.6%、農村地区では16.1%が土のままである。その他混合ものの中には、家屋の一部分が、モザイクタイルや、セメント、土など、いろいろ使われている場合を示している。

#### ④ 台所、寝室の占有性

台所が、家屋の中で独立した部分となっているか否かについて、＜図12＞に示した。台所が独立した部分でないという場合は、上流・中流上階層で7.1%、中流階層で19.6%、貧困階層で24.4%、農村地区で29.0%みられる。これらの場合、そのほとんどが、台所と寝室が兼用されていることが、＜図13＞によって示されている。

また、＜図14＞に示したように、寝室（寝るためのだけの部屋）を、1室も持っていない家屋は、中流階層では7.1%、貧困階層では12.2%、農村地区では16.1%を占めている。

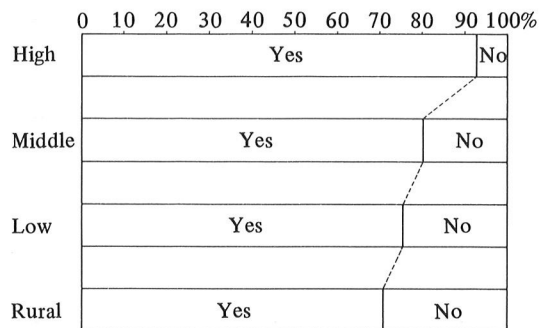


Figure 12. Presence of Exclusive Kitchen

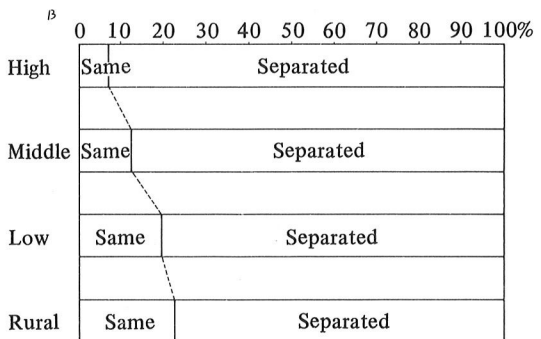


Figure 13. Relation between Kitchen and Bed Room

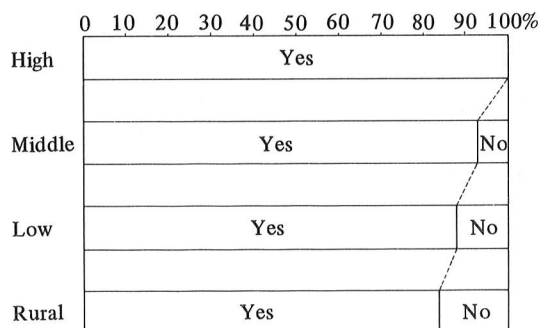


Figure 14. Presence of Exclusive Bed Room

#### ⑤ 上用水設備

上用水をどこから取っているかについて、＜図15＞に示した。多くの場合、水道から得ているが、農村地区では、56.3%が井戸水を使用している。次に、家屋内に上用水をとる配管があるか否かについては、＜図16＞に示した。

上流・中流上階層では、100%家屋内に配管を

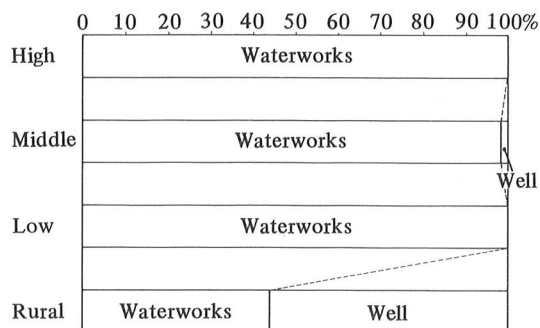


Figure 15. Water Supply

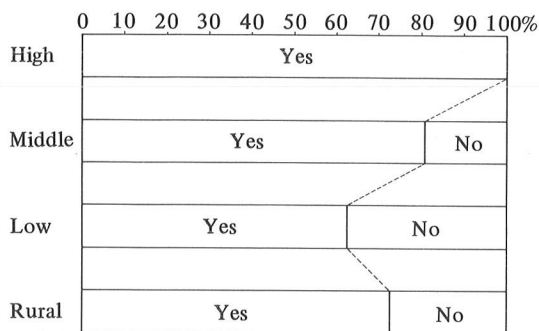


Figure 16. Presence of Water Supply inside a House

もつが、中流階層では19.6%, 貧困階層では 34.0%, 農村地区では 32.3% が配管設備をもっていない。

#### ⑥ 排水設備

台所の污水, 及び, 洗濯污水などの家屋内における排水管設備の有無について, <図17>に示した。排水管設備をもつものは, 上流・中流上階層では 92.3%, 中流階層 76.7% 貧困階層 48.7% であるが, 農村地区では 6.3% にすぎない。

#### ⑦ 便所設備

便所設備については, <図18>に示した。水洗式の便所設備をもつ家は, 上流・中流上階層では 92.3%, 中流階層では 92.5% であるが, 貧困階層では 62.5%, 農村地区ではゼロである。

汲取式便所は, 上流・中流上階層では 7.7%, 中流階層 37.0%, 貧困階層 10.0%, 農村地区は 19.4% であった。

注目すべきは, 便所設備をもたず, 地べたへの糞便を行なうものが, 上流・中流上階層ではゼロ

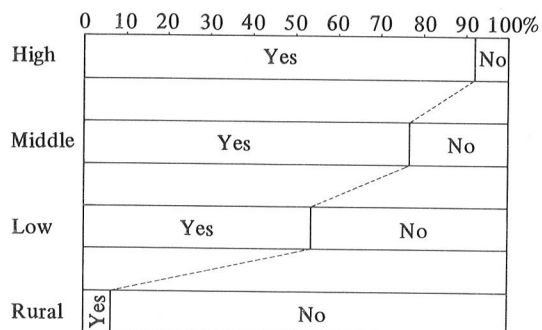


Figure 17. Presence of Drainage inside a House

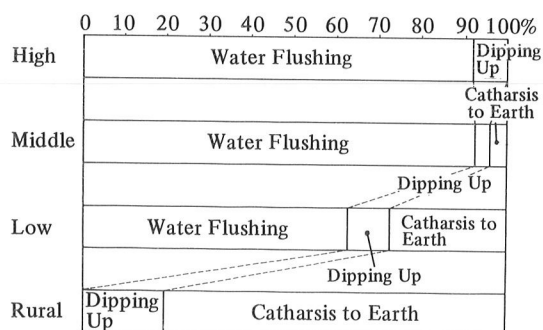


Figure 18. Facility of Lavatory

であるが, 中流階層では 3.7%, 貧困階層 27.5%, 農村地区では 80.6% あったことである。

#### 3) 児童生徒の家庭生活

##### ① テレビの視聴時間

テレビが家庭にあるか否かについて, <図19>に示した。上流・中流上階層, 及び, 中流階層で

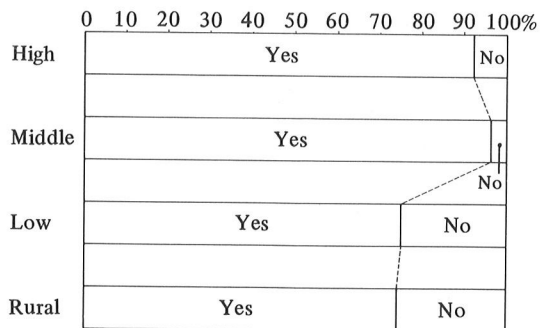


Figure 19. Possession of TV

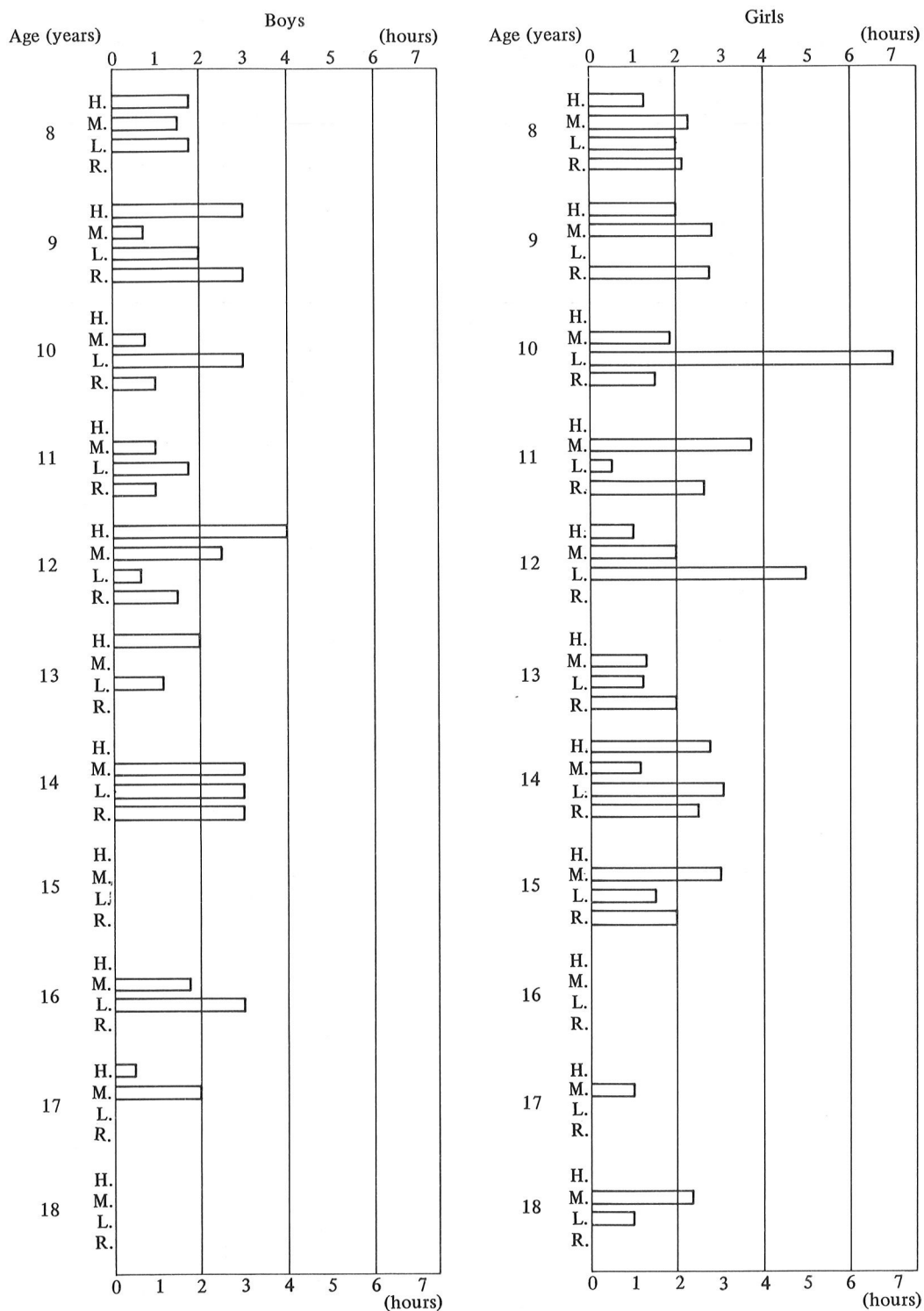


Figure 20. Time for Watching TV

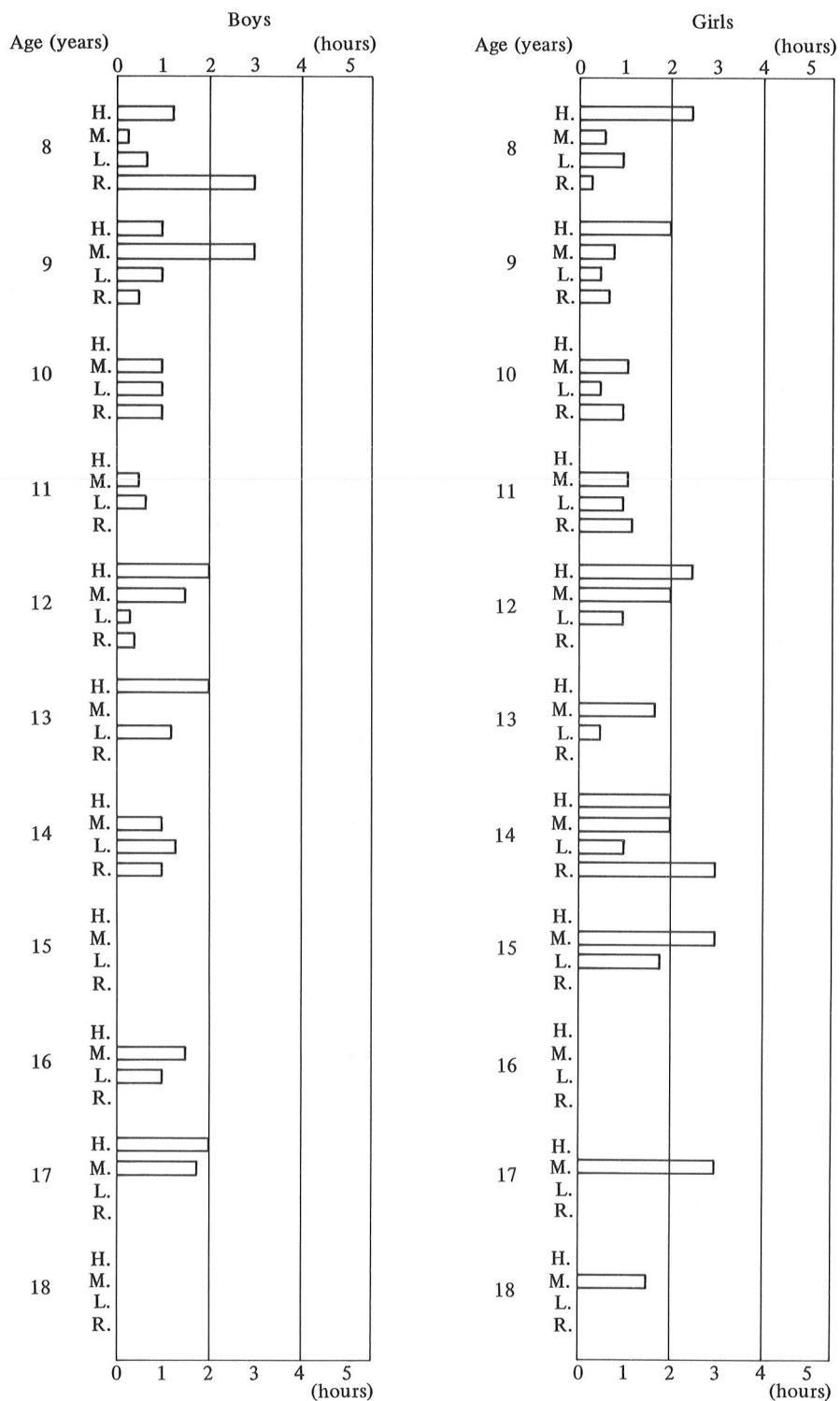


Figure 21. Average Time for Home Work

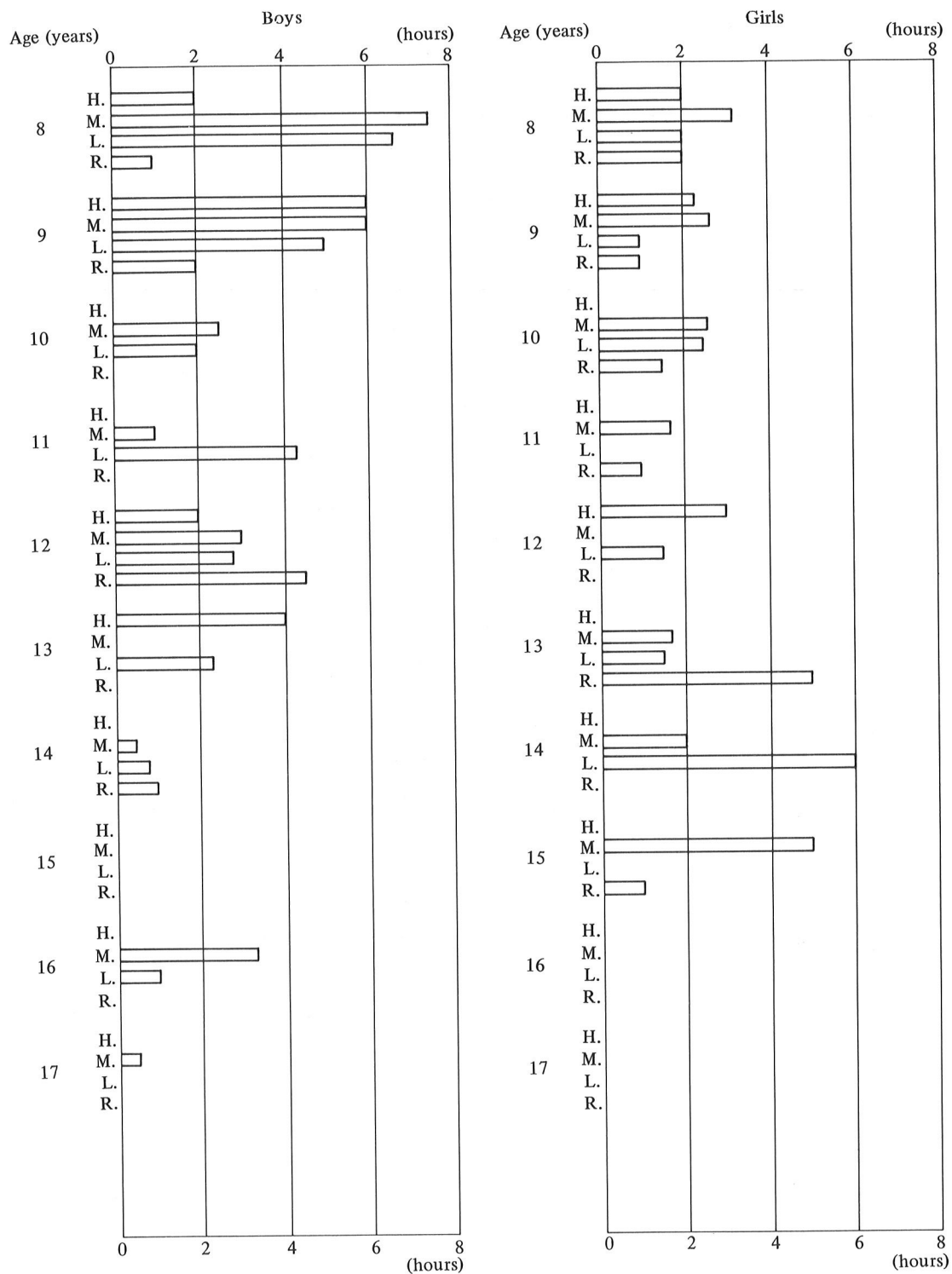


Figure 22. Time for Play

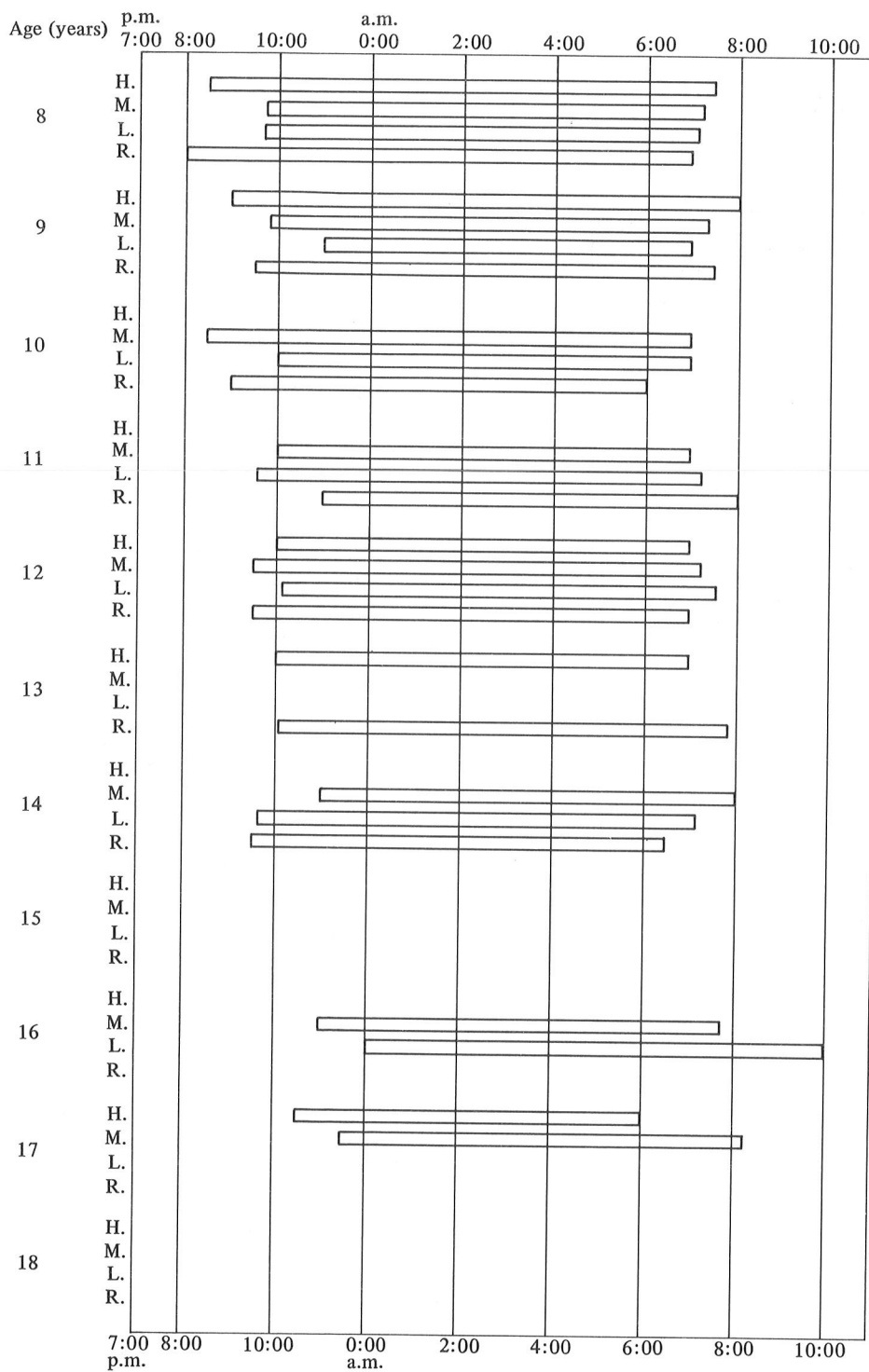


Figure 23(A). Sleeping Time (Boys)



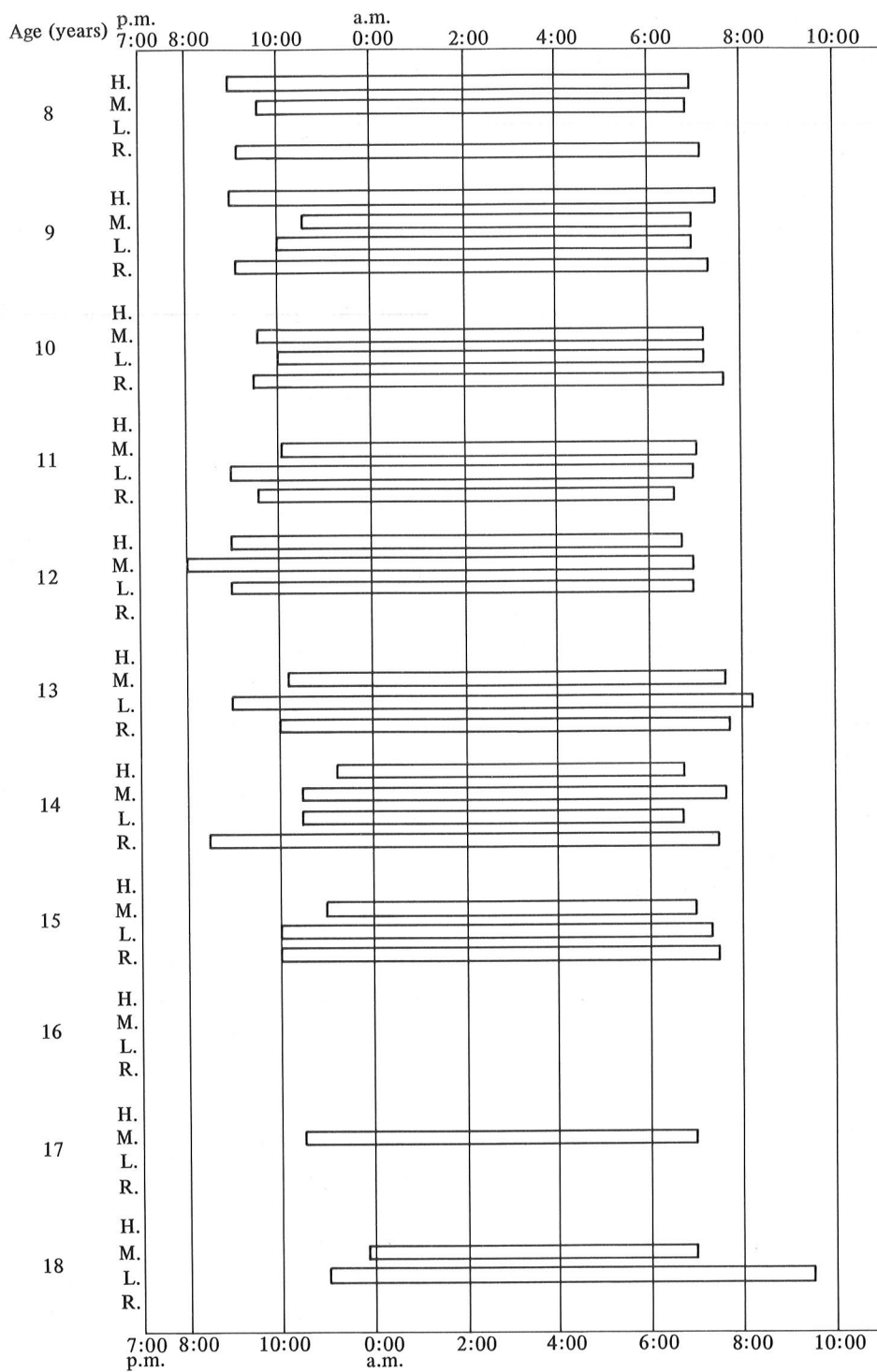


Figure 23(B). Sleeping Time (Girls)

は、92.3%～96.4%がテレビを保有しているが、貧困階層、及び、農村地区では、75.0%の保有率である。

テレビ保有家庭の児童生徒について、テレビの視聴時間を、男女別、年令別、社会経済階層別に分類したものが<図20>である。テレビ視聴時間は、1時間～3時間程の場合が多い。年令別、社会経済階層別には、特に目立った傾向はみられない。

## ② 家庭での勉強時間

学校から帰宅後の勉強時間について、その平均値を示したものが<図21>である。全体としてみると、低年令から高年令に従って、平均勉強時間は増大する傾向にあるが、同年令者同志を比較してみると、上流・中流上階層、及び、中流階層の子どもの勉強時間が多い傾向がみられている。

年令、性別、社会経済階層にかかわらず、勉強時間についてその人数分布を調べてみると、家庭で全く勉強しないものは12.5%みられた。人数の多い順に示すと、1時間27.9%、30分26.5%、2時間20.6%、1時間30分5.9%、3時間5.1%、2時間30分1.5%という結果であった。

## ③ 遊びの時間

遊んでいる時間について、年令別、男女別、社会経済階層別に<図22>に示した。遊びの時間の内容については、明確な分類ができにくいが一応、クラブに入ってスポーツ活動をしている時間、友人と遊んでいる時間などを主として調べた。1～2時間程度という解答が多く得られたが、5～7時間という例も8～9才男子、13～15才女子についてみられている。

## ④ 睡眠時間

就寝時間、及び、起床時間をもとに、睡眠時間について<図23 (A, B)>に示した。平均睡眠時間は、8才では10時間であるが、10才では9時間35分、14才では9時間5分であった。

## ⑤ 就寝時の人数

児童生徒が就寝時に何人と同室で寝ているかについて、<図24>に示した。1人で寝る場合は、上流・中流上階層では46.2%であるが、中流階層では14.3%、貧困階層では2.4%、農村地区では6.5%

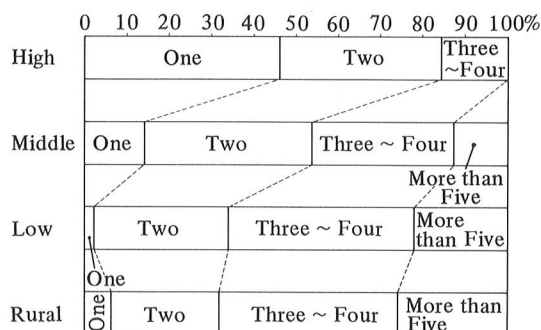


Figure 24. Number of Sleeping Person in One Bed Room with the Subject

であった。一方、5人以上と寝る場合、上流・中流上階層ではゼロであるが、中流階層では12.5%、貧困階層では22.0%、農村地区では25.8%であった。

## 4) 食事の内容

メキシコ人の食生活は、通常、昼食を最も重視し、朝食や夕食は軽くとられている。

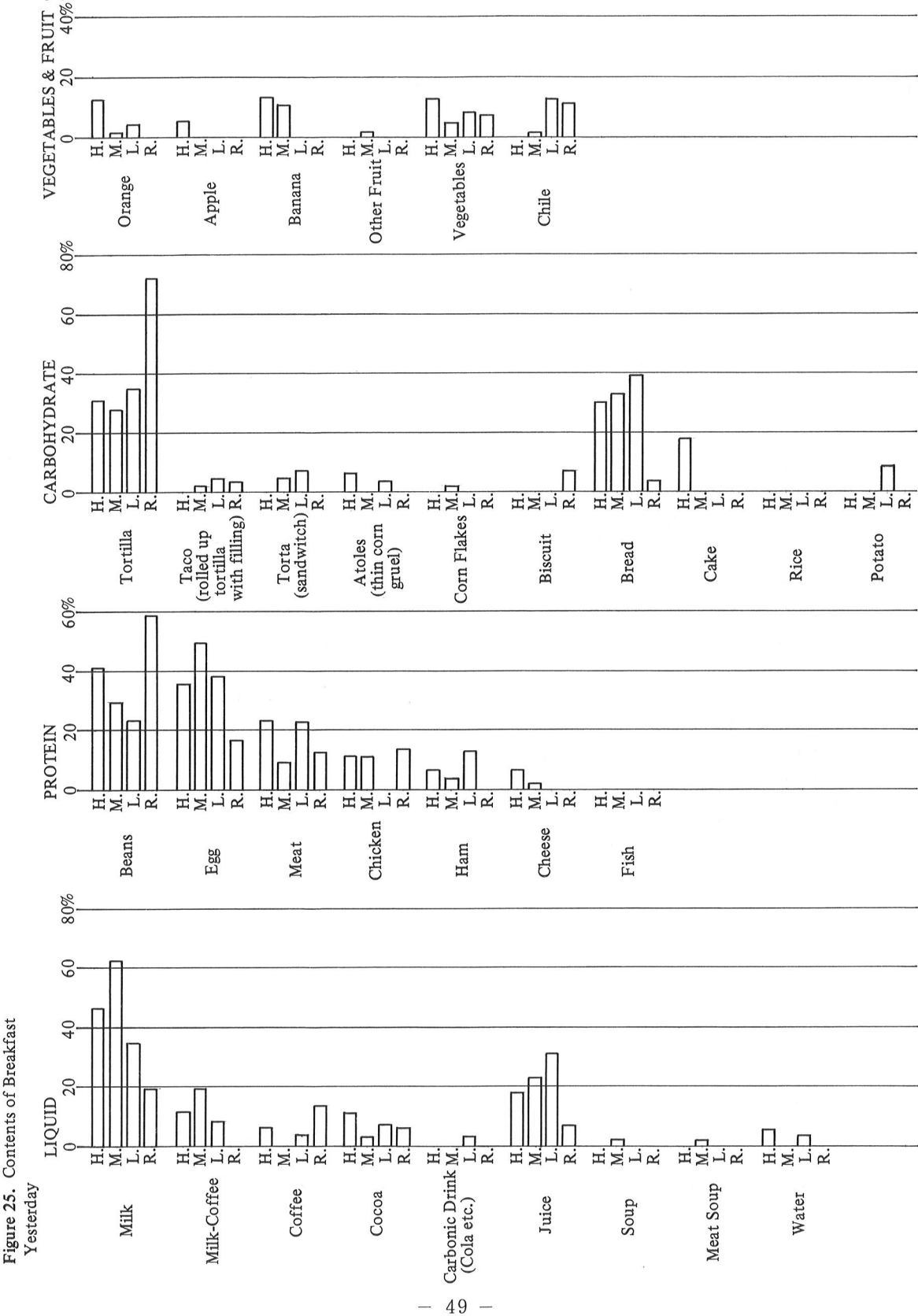
食事内容について、1日だけの調査では、かたよった結果が得られる場合があると考えられたので、調査当日、及び、前日の食事内容について、できるだけ詳細に調べた。なお、夕食については、前々日の内容も調べた。食事内容は、対象となった児童生徒の摂取したものである。

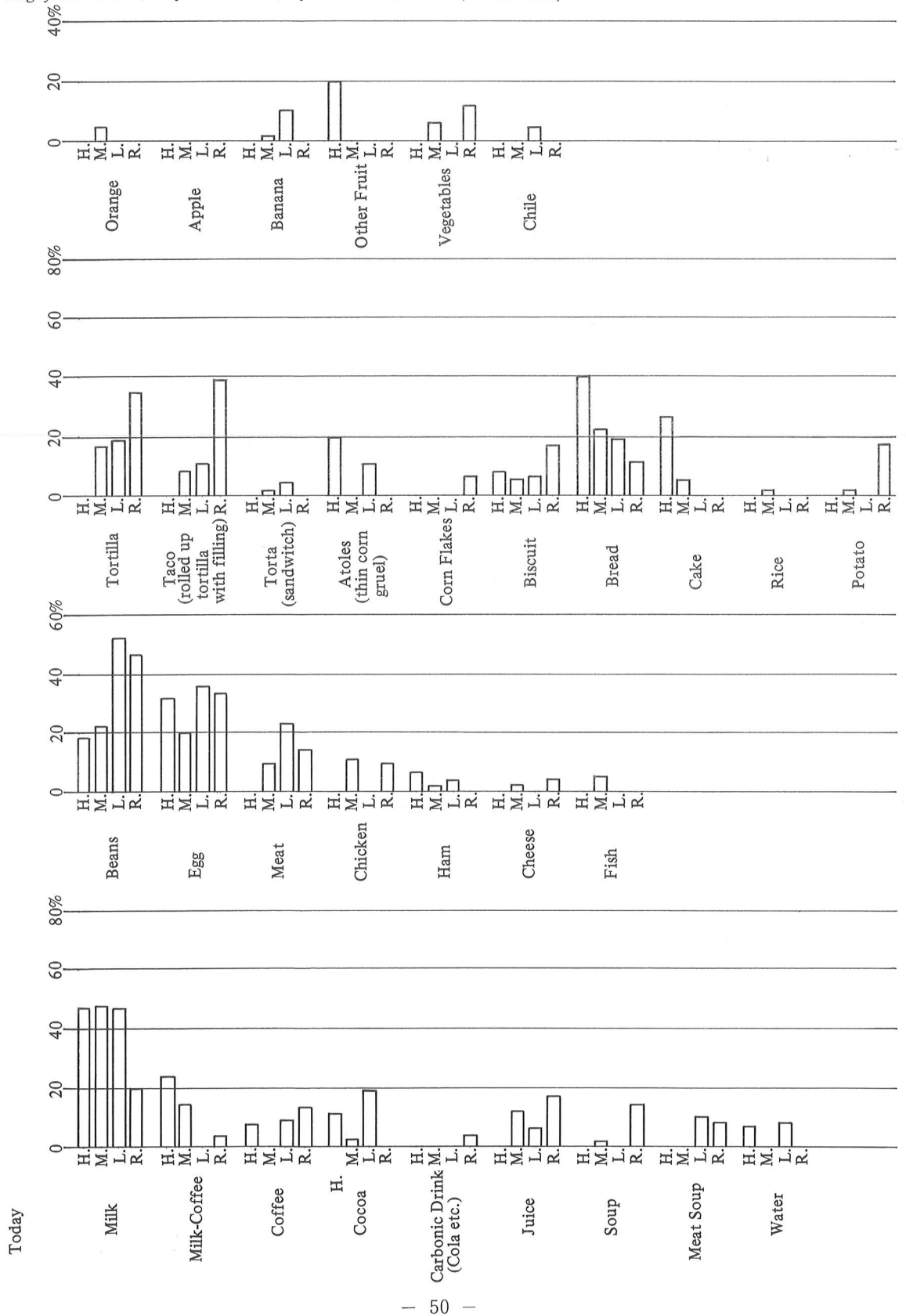
食事の内容について、液体類、タンパク質類、炭水化物類、野菜、果実類に大別し、社会経済階層別に<図25～27>に示した。

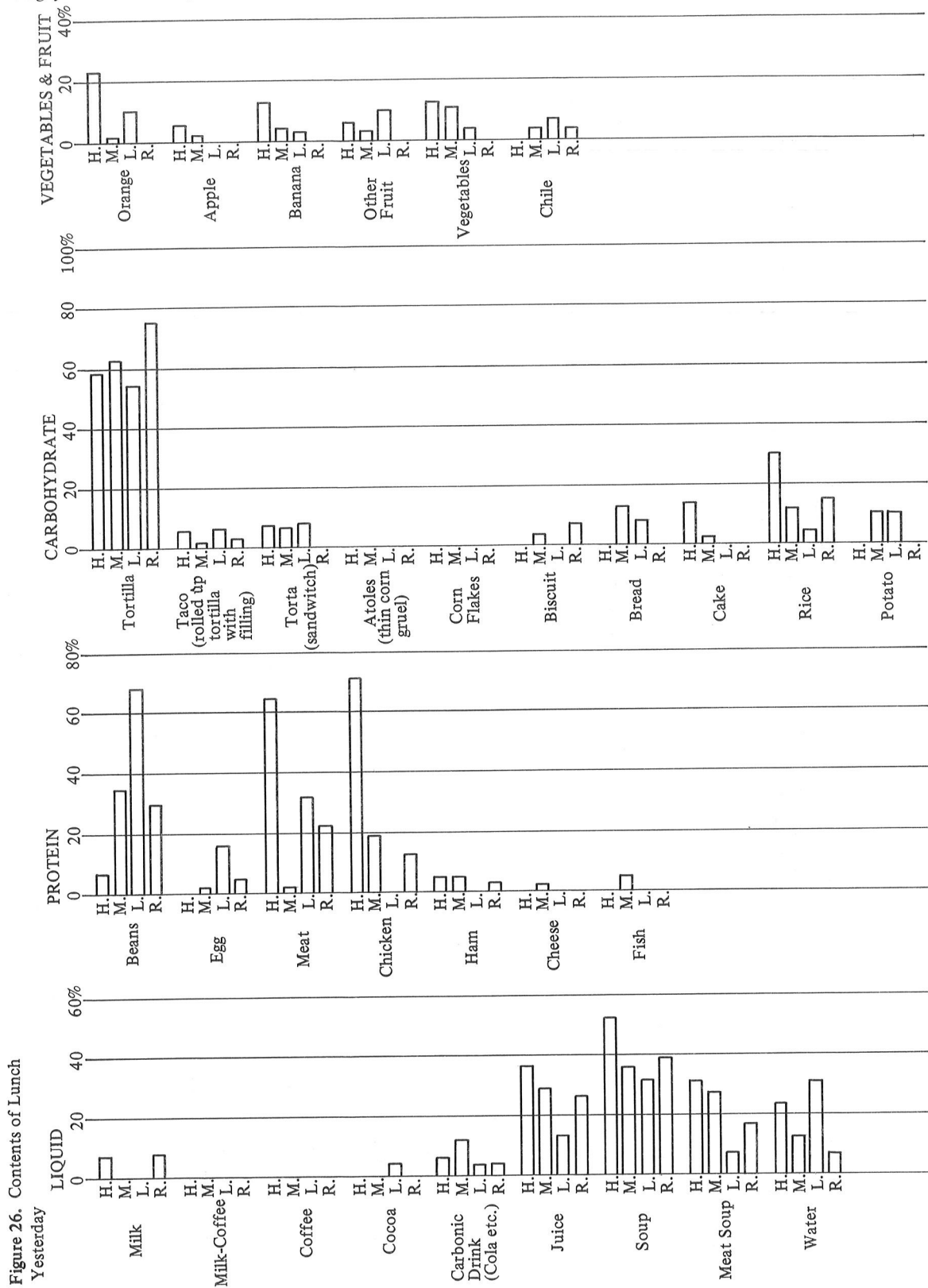
### ① 朝食の内容

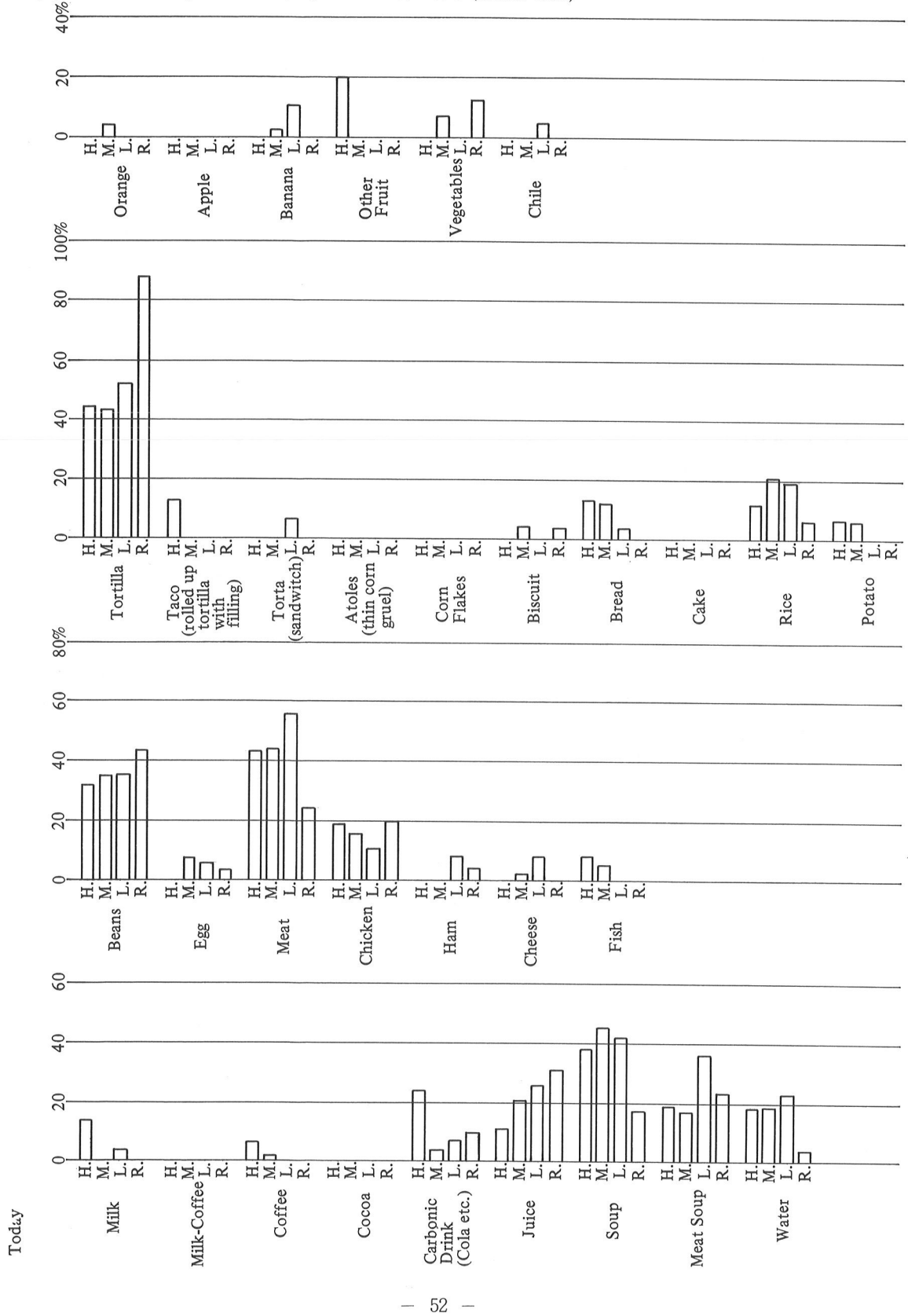
前日の朝食の内容について<図25>に示した。液体類では、ミルクが、都市部各階層で50%前後の児童生徒によって摂取されているが、農村部では20%と少ない。コーヒー・ココア類の摂取も10%みられる。ジュースの摂取も10～30%と比較的多い。ナマ水は、衛生上、通常自由に飲むことができないので、飲料水として購入したものを摂取している。このため、水という項目が設けられている。

タンパク質類では、豆（いんげん豆）と卵が最









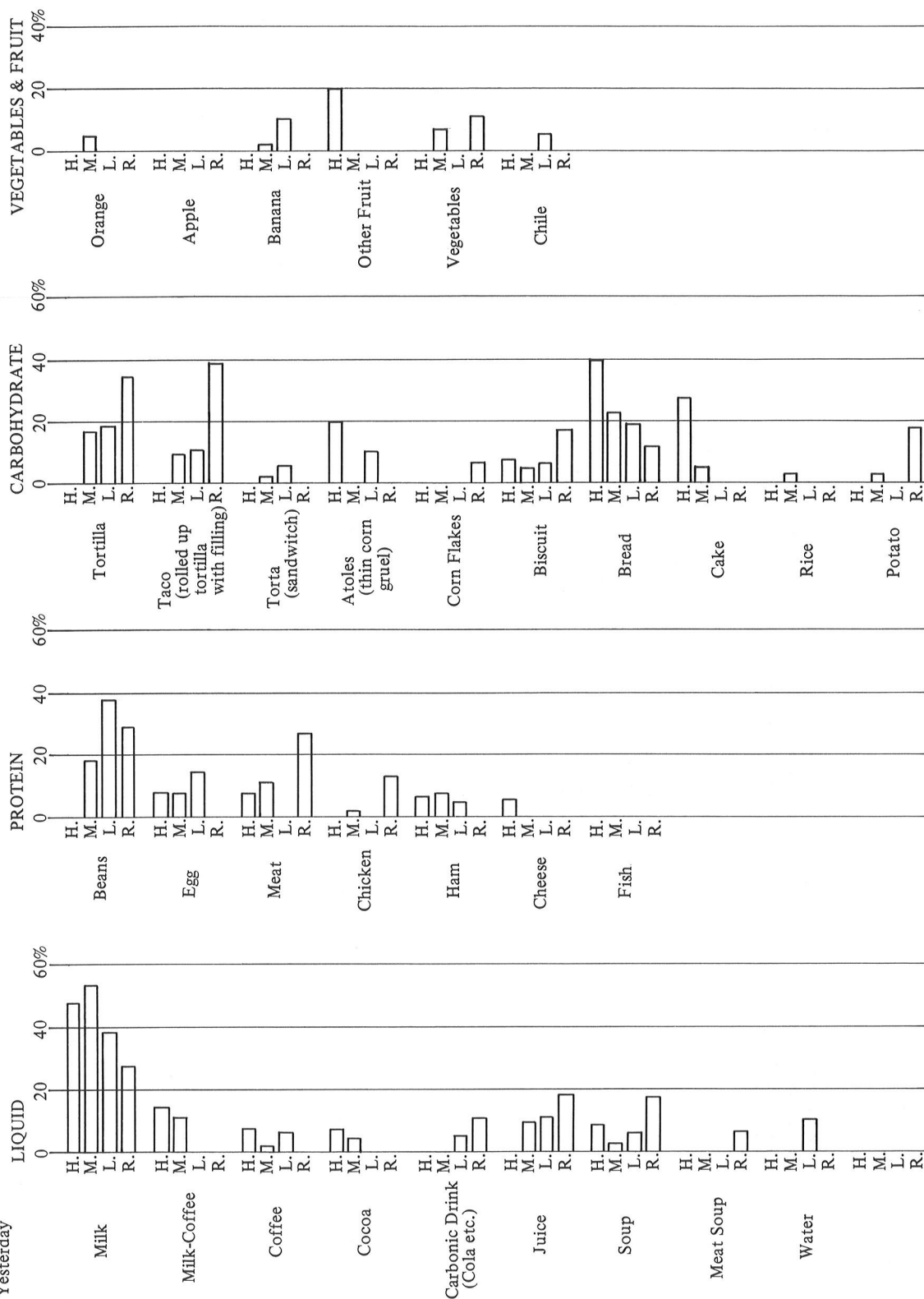
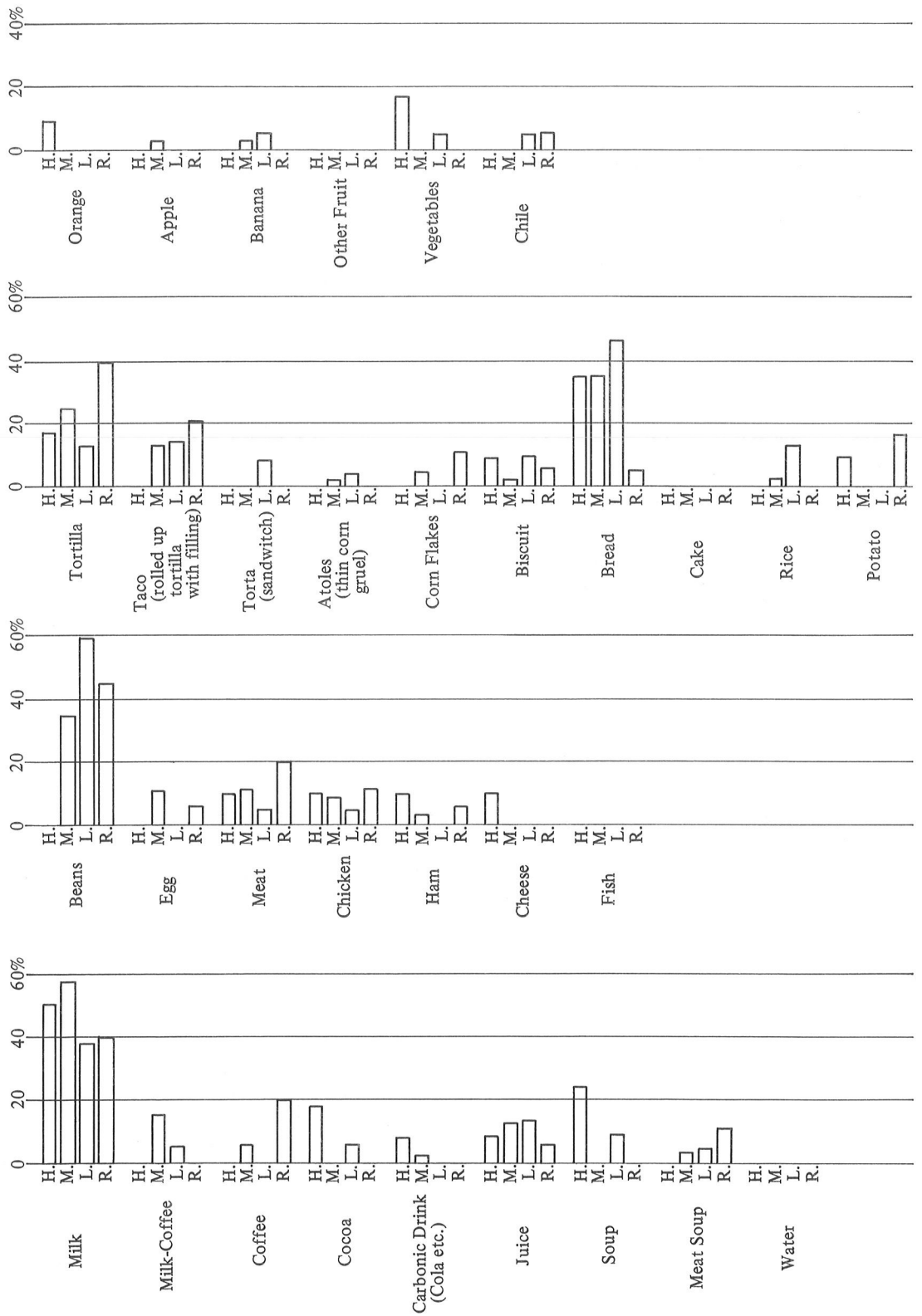


Figure 27. Contents of Supper Yesterday

Today





も多い。いずれも20～60%の子どもが摂取している。特に、農村地区では2日間とも高い率を示している。獣肉及び鳥肉も10～25%摂取されている。ハム・チーズ等の摂取は少ない。

炭水化物類では、主食であるトルテヤ（トウモロコシの粉で作った薄いホットケーキ状のパン）の摂取が多く、20～70%を占める。タコ（小型のトルテヤで、中に野菜や肉などをはさむ）の摂取も農村地区で高い。パンは都市部で20～40%摂取されているが、農村地区では少ない。

野菜・果実類を摂取するのは、10%以下である場合が多い。

## ② 昼食の内容<図26>

昼食は、十分に時間をかけ、その量も多くとられ、最も重要視されている食事である。昼食は午後2時頃から始まる場合が多い。

液体類では、ジュースの摂取が10～38%、スープは、農村地区の当日では17%であるが、その他の場合では30～53%摂取されている。肉入りスープも比較的多い割合で摂取されている。水の摂取も朝食より多い。

タンパク質類では、前日では、上流・中流上階層では豆が少なく、獣肉や鳥肉が、65～70%摂取されているが、他の階層では、肉類の摂取は30%以下である。貧困階層では、豆の摂取が68%と高い。当日では、獣肉が都市部各階層で45～55%摂取されているが、農村地区では25%以下である。豆の摂取は、いずれの階層でも30～43%であるが、農村地区でやや高い。これらのことは、上流・中流上階層では、毎日獣肉を摂取している割合が高いが、他の階層では、毎日摂取していないことを物語っている。

炭水化物類では、トルテヤの摂取が圧倒的に多く、前日では53～75%、当日では43～86%を占めている。特に農村地区での摂取率が高い。昼食にライスを摂取する場合も、上流・中流上階層では、前日に29%、当日に13%みられる。他の階層では10～20%前後である。ポテトの摂取も10%前後みられる。

野菜・果実類の摂取も、上流・中流上階層では20～23%までみられるが、他の階層では10%以

下である。

## ③ 夕食の内容<図27>

夕食は、通常、8時頃に軽く摂取される。液体類では、ミルクの摂取が最も多く、28～57%、摂取されている。また、ジュースも5～12%摂取され、スープも当日の上流・中流上階層では25%摂取されている。

タンパク質類のうち、豆は28～59%摂取されているが、上流・中流上階層では両日とも摂取がない。獣肉の摂取は、農村地区で両日とも20～27%と高率であるが、貧困階層では、その摂取が0～5%とわずかである。鳥肉は5～10%前後、ハムも5～10%摂取されている場合が多い。

炭水化物類では、トルテヤが12～40%程度であるが、前日の上流・中流上階層では摂取が少ない。そのかわりとして、パンの摂取が多い。パンの摂取は、農村地区を除き当日では33～46%と高率である。農村地区では両日ともパンの摂取は比較的少ない。農村地区では、トルテヤの他、タコの摂取が多い。また、ビスケットを夕食に摂取する場合も4～9%みられる。ケーキを摂取するのは、前日の上流・中流上階層の26%と、中流階層の4%のみであった。農村地区では、ポテトの摂取が両日とも15%前後と、他の階層と比較して高い率である。

野菜・果実類の摂取は、前日で上流・中流上階層で20%の高率を示している。その他の階層ではいずれも10%以下である。

## ④ 食事をしないものの割合

朝食を食べないものは、貧困階層では16%、中流階層2%、昼食を食べない者はゼロ、夕食を食べないものは、貧困階層で35%、農村地区で42%に比較し、上流・中流上階層では11%、中流階層では7%であった。

# 5. 考 察

## 1) 概観

メキシコの国土は、日本の約5.3倍、<sup>9)</sup> 人口は約5,000万人である。1521年、コルテスがアステカ帝国を滅ぼして以来、原住民であるインディヘ

ナと、ヨーロッパ系民族との間に、450年間にわたって混血が進み、かたくなに純血主義を保っている一部山岳民族を除いて、世界でも非常に稀な、モンゴロイドとコーカシアン<sup>5, 6)</sup>の混血民族としてのメキシコ人が形成されている。<sup>5, 6)</sup> 今日、コーカシアンである欧米人や、モンゴロイドとしての日本人についての、体力や健康、生活実態に関する研究データは多く発表されているが、コーカシアンとモンゴロイドの混血民族としての、メキシコ人児童生徒に関する資料は少ない。本調査研究は、メキシコ人児童生徒の体力科学的研究のうちの一部として、体力の背景を把握する目的をもって実施したものであるが、このような戸別訪問の調査によって得た資料は、メキシコ国内でも非常に珍しいものであった。

メキシコには、現在、激しい貧富の差があるが、その様子は、黒沼ユリ子著「メキシコからの手紙—インディヘナのなかで考えたこと」(岩波新書)に詳しく記述されている。その様子は、日本では想像をこえたものであるが、現地調査では、その様子をつぶさに観察することができた。その様子を、本調査結果として、数値的にどこまで把握することができたかについては、疑問の点も残るが、一応、その概観をとらえることができた、と考えられる。筆者は、8才から18才のこれらのメキシコ人児童生徒、男女329名を対象に、形態計測、筋力、及び、最大酸素摂取量の測定結果を報告しているが、<sup>2, 3)</sup> その結果は、形態、体力全般にわたって、上流・中流上階層の児童生徒が、貧困階層の児童生徒より優れていた。<sup>2)</sup> これらの差は、社会経済的要因が大きく影響していることを示すものである。

## 2) 日本の子どもの生活との比較

NHK放送世論調査所が編成した、「日本の子どもたち—生活と意識」(日本放送出版協会)<sup>8)</sup>のなかで、小学校6年生、及び、中学校2年生を対象とした調査結果が報告されている。それによると、日本の子どもたちの睡眠時間は、小学生で9時間19分、中学生7時間47分である。テレビ視聴時間は、小学生2時間20分、中学生2時間02分。

スポーツをしたり、遊んだりする時間は、小学校高学年では1時間21分とあるが、中学生では33分である。また、勉強と課外活動の時間は、平日で小学校6年生1時間43分、中学校2年生では3時間30分である。

これら日本の子どもたちの生活と、メキシコの子どもたちの生活を比較してみたい。

メキシコの子どもの睡眠時間は、11, 12才で平均9時間33分、14, 15才で9時間02分である。中学生期にあたる年令の睡眠時間は、メキシコ人で1時間15分長い。

テレビの視聴時間は、11, 12才で平均2時間38分、14, 15才で平均2時間15分であり、日本の子どもの場合と大きな差はない。家庭での勉強時間は、11, 12才で平均53.6分、14, 15才では1時間28分である。クラブ活動を含めた遊びの時間は、11, 12才では2時間05分であるが、14, 15才では、1時間23分とやや少なくなっている。

日本の子どもとの比較において、勉強時間と遊びの時間を合計してみると、11, 12才では2時間58分、14, 15才では2時間51分となり、メキシコの子どもでは、小学生期にこの時間は長いが、中学生期には日本の子どもより短くなる。メキシコでは、中学生になると働くものの割合が多くなるため、このような結果になったと考えられる。

兄弟の数を、日本とメキシコで比較してみると、日本では全国平均2.7人であるが、メキシコでは、上流・中流上階層では3.9人、中流階層、貧困階層、農村地区の平均は7.1人である。メキシコでは兄弟の数が多い。本稿には示さなかったが、遊びの内容、及び、遊びの相手を調査してみると、メキシコでは、友人と遊ぶとともに、兄弟と遊ぶ場合が多い。兄弟の年令構成をみると、ほとんど毎年連続して誕生している場合が多い。

## 3) 公衆衛生面について

家屋の内容調査から、排水管、便所設備の不備、土間の存在など、衛生設備上の不備が、人口の大多数を占める貧困階層や農村地区に多くみられた。

本調査研究の対象となった児童・生徒の糞便検査の結果では、76.7%のものに寄生虫卵が見い出

された。<sup>3)</sup> 事実, 児童生徒たちに限らず, 大人たちも腹痛をおこす場合が頻繁にみられた。また, 成人病のうち, 肝臓障害が最も多いのも, これら公衆衛生面での問題点が多いことが, 一般的にも指摘されているところである。

本調査研究は, 日本学術振興会, メキシコ国家科学会議(CONACT), 及び, グナファト大学の援助のもとに行なわれたものである。

#### 謝 辞

本調査研究に, 御協力いただいた, メキシコグナファト大学労働科学研究所 Prof. Dr. O. ローサス, Dr. F. J. ディアス, Ms. R. コネホ, レオン市長 Mr. H. ガブリエル, レオン市教育長 Prof. A. ロドリゲス, 及び, ソーシャルワーカー研修生として, 実際の調査にあたったローサ, マルガリータ, マリアデヘスス, ブランカ, マルサ, マリアデロスアンヘレス, ベルサ, リディア, パトリシ

ア嬢に, 深く感謝の意を表します。

#### 文 献

- 1) Casanova, P. G. (賀川俊彦, 石井陽一, 小林良彰, 訳) 現代メキシコの政治, 敬文堂, 1981.
- 2) 小林寛道, メキシコ青少年(8~18才)の生活環境と Aerobic Power. 日本体育学会第32回大会号 p.363, 1981.
- 3) Kobayashi, K.: Stature and Aerobic Power of Mexican Boys and Girls aged 8 to 18 years. 第36回日本体力医学会大会予稿集 p.160, 1981.
- 4) 黒沼ユリ子, メキシコからの手紙, ーインディヘナのなかで考えたことー, 岩波新書, 1980.
- 5) 増田義郎, 古代アステカ王国, 征服された黄金の国, 中公新書 6, 1963.
- 6) 増田義郎, メキシコ革命, 近代化のたたかい, 中公新書 164, 1968.
- 7) 中屋敷正人, メキシコ経済の旅, 東洋経済新報社, 1977.
- 8) NHK 放送世論調査所 編, 日本の子どもたち, 生活と意識, 日本放送出版協会, 1980.
- 9) 日本交通公社, メキシコ, 交通公社のポケットガイドブック 119, 日本交通公社出版事業局, 1980.

(1982年1月4日受付)

